

## モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団ニュースレター

2021年3月29日

### オンライン追悼式：マンズフィールド財団理事の故 L・ディセイ・アンダーソン氏を偲んで



3月4日(米国時間3月3日)、マンズフィールド財団は、2月11日に84歳で逝去したL・ディセイ・アンダーソン・マンズフィールド財団理事のオンライン追悼式を執り行った。生前のアンダーソン氏を知る100名以上の参加者を代表して、まずマンズフィールド財団のフランク・ジャヌージ理事長が温和で優しいながらも、同時に決断力がある外交官であったアンダーソン氏を回想し追悼の辞を述べた。続いて、故人の外交官時代の同僚であったジョン・ネグロポンテ元米国国務副長官が、アンダーソン氏がいかに勤勉な外交官であったか故人と

の思い出を語り、その後、マンズフィールド財団のアリシア・小川理事、クリストファー・ラフルアー理事会副会長、ゴードン・フレイク元財団所長らが故人を偲んだ。

アンダーソン氏は、マンズフィールドフェロースhip創設の1994年以來の理事であり、2015年から2019年にかけては理事会会長として26年間の長きにわたり財団に貢献した。財団理事の就任前は、著名な外交官として35年の経歴を有し、ネパール、日本、台湾、タイに駐在。特に、1985年から1989年の間、マイク・マンズフィールド大使の下、在京米国大使館の公使を務め、1995年の対ベトナム外交関係確立後、ハノイに開館された米国大使館にて大使代理として米越関係の回復に取り組んだだけでなく、朝鮮半島エネルギー開発機構(KEDO)の事務局長として北朝鮮の核問題交渉における中核的役割を果たした。外交官引退後は、絵を描くことをこよなく愛し、氏の作品のいくつかは財団のワシントン事務所やモンタナ事務所に今も飾られている。

### 日米韓三か国議員による第3回オンライン会合開催

3月5日、マンズフィールド財団は、日米友好基金及び一般財団法人国際経済交流財団との共催による[日米友好基金トーマス・S・フォーリー議員交流プログラム](#)のもと、昨年7月、11月に続き、第3回目のオンライン会合を実施した。本プログラムは、日米韓三か国の議員交流を目的としており、今回は韓国の金漢正(キム・ハンジョン)議員(共に民主党)がモデレーターを務める中、各国のコロナ対策や2021年の経済の見通し等について意見交換をした。参加者は日本からは、山本幸三衆議院議員(自由民主党)、猪口邦子参議院議員(自由民主党)、中川正春衆議院議員(立憲民主党)、牧山ひろえ参議院議員(立憲民主党)、米国からはマーク・タカノ下院議員(民主党)、フレンチ・ヒル下院議員(共和党)、韓国からは金議員の他、尹暢賢(ユン・チャンヒョン)議員(国民の力党)、崔炯斗(チェ・ヒョンドウ)(国民の力党)、洪起元(ホン・ギウォン)(共に民主党)。

### 日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワークプログラム：第3回内部セミナー実施

3月10日(米国時間9日)、[日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム](#)第5期参加者による第3回内部オンライン・セミナーを実施し、3人のプログラム参加者がプレゼンテーションを行った。まずジョーダン・ハイバー氏(元マンスフィールドフェロー、米国通商代表部及び米国国務省を経て三菱UFJ銀行ワシントン駐在員事務所副代表)が日米関係における人材の重要性について、次にヒラリー・ホルブラウ博士(ハーバード大学社会学部講師)が日本の技術実習生制度について、最後にニコラス・スターズドーフ・シスターナ博士(サザン・メソジスト大学人類学部助教授)が日本のデータ駆動型社会についてそれぞれの研究の要点を発表した。また、同席した諮問委員は、今後ネットワークフェローがプログラム成果としての署名入り記事(Op-Ed)やポリシーペーパーにまとめるための助言やコメントを述べた。

### [第5期参加者のプロフィール](#)

### 東日本大震災十周年追悼イベント:「あの日をわすれない—2011年3月11日 これまでとこれから」米日カウンスル主催、マンスフィールド財団他日米関連団体共催

3月11日、在米日本大使館及び在日米国大使館と協賛のもと、米日カウンスルの主催、マンスフィールド財団など日米関連11団体の共催による東日本大震災十周年追悼イベント「あの日をわすれない—2011年3月11日 これまでとこれから」が行われた。ジョセフ・M・ヤング駐日米国臨時代理大使や富田浩司駐米日本大使を始め、歴代駐日大使、駐米大使および日米関係のリーダーが登壇した。パネルディスカッション「日米関係の今後」では、パネリストに、トーマス・シーファー元駐日米国大使、佐々江賢一郎元駐米日本大使、キャロライン・ケネディ元駐日米国大使、杉山晋輔元駐米日本大使が登壇し、マンスフィールド財団のフランク・ジャヌーヅ理事長とペイジ・コッティンガム・ストリーター 米側カルコン事務局長が共同モデレーターを務めた。

### 「世界における日米協力:2020年とその先」ウェビナー・シリーズ パネルディスカッション開催

在米日本国大使館の支援のもと、マンスフィールド財団が主催する「世界における日米協力:2020年とその先」ウェビナー・シリーズのパネルディスカッションが3月19日と24日に以下の通り行われた。

#### ● 3月19日(米国時間18日)「エネルギー政策における日米アライメント:目標と戦略」

パネリストにフィリップ・リップシー博士(トロント大学政治学准教授)とメアリー・マッカーシー博士(ドレーク大学政治学准教授)を迎え、日米のエネルギー政策における共通の目標と戦略について議論を行った。リップシー博士とマッカーシー博士はともに、マンスフィールド財団が国際交流基金日米センターと共催で行う[日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム](#)の参加者。

#### ● 3月24日(米国時間23日)「宇宙政策における日米協力」

パネリストにサーディア・ペッカネン博士(ワシントン大学教授)とロン・ロペス氏(アストロスケール US Inc.社長兼マネージングディレクター)を招き、日本と米国が宇宙分野における共通の目標に対しての協力関係について議論した。ペッカネン博士は、マンスフィールド財団が主催する

「[日米宇宙フォーラム](#)」プログラムで、同財団のフランク・ジャヌージ理事長とともに共同議長を務める。またロペス氏は、2014年に日米宇宙フォーラムが設立された時の設立メンバー。

今後のウェビナー・シリーズの案内については、下記の[＜今後のイベント案内＞](#)を参照。

#### 第 25 期 マンスフィールドフェローのための訪日前オリエンテーション実施

3月23日及び27日(米国時間22日及び26日)、マンスフィールド財団は、[マンスフィールド・フェローシップ・プログラム](#)第25期フェローのための訪日前オリエンテーションを二日に分けて行った。本来であれば、昨年夏に訪日予定のところ、新型コロナウイルス感染症の大流行により訪日の延期を余儀なくされているが、その間、財団はフェローに対して日本の政治や経済などのテーマ的セミナーやオンライン日本語レッスンを提供し支援を続けている。今回のオリエンテーションではフェローに対して今後の見通しや健康管理対策等についての説明を行った。

#### 米国国務省ファクトシート、マンスフィールド財団プログラムに言及

米国のアントニー・ブリンケン国務長官とロイド・オースティン国防長官が3月15日から17日に日本を訪問するのに先立ち、米国国務省はファクトシート「Reaffirming the Unbreakable U.S.-Japan Alliance(堅固な日米同盟の再確認)」(3月14日)を公式ウェブサイトに掲載し、揺らぐことのない日米同盟についての事実事項を再確認した。

その中の「日米の人々の安定した友情(The Steadfast Friendship of the American and Japanese People)」の項目で、マンスフィールド財団の名前が言及されている。

「米日カウンスル、マンスフィールド財団、笹川平和財団のように多くの非営利団体が人と人との交流に官民パートナーシップや米国の助成金を活用している。(“Many other non-governmental organizations, such as the U.S.-Japan Council, **Mansfield Foundation**, and Sasakawa Peace Foundation, utilize public-private partnerships and U.S. government grants to support people-to-people exchanges.”)」

以下、米国国務省公式ウェブサイト Factsheet: Reaffirming the Unbreakable U.S.-Japan Alliance <https://www.state.gov/reaffirming-the-unbreakable-u-s-japan-alliance/>

#### 韓国アリラン TV のスペシャルプログラムにマンスフィールド財団ジャヌージ理事長が登壇

3月5日、韓国アリラン TV ワールド放映のプログラム、アリラン・スペシャル「S. Korea - U.S. Relations: Build Back Better」のバーチャル・ディスカッションにマンスフィールド財団のフランク・ジャヌージ理事長が登壇した。番組は ArirangTV の YouTube より視聴可能(外部リンク)。

<https://www.youtube.com/watch?v=wiRe6DxDezw>

[＜今後のイベントのご案内＞](#)

## 「世界における日米協力:2020年とその先」ウェビナー・シリーズ

在米日本国大使館の支援のもと、マンسفールド財団が主催する「世界における日米協力:2020年とその先」ウェビナー・シリーズのオンライン・パネルディスカッション(英語)、が3月30日と4月1日に以下の通り行われます。ご関心ありましたら、ご登録の上、是非ご参加ください。

(1)3月30日午前4時-5時/米国東部標準時間3月29日午後3時-4時

### 「人道支援・災害救助(HA/DR):日米協力の課題と機会」

[Humanitarian Assistance and Disaster Relief: Challenges and Opportunities for U.S.-Japan](#)

#### [Cooperation](#)

パネリスト:

マイケル・ルーク・デッカー中佐

(米国陸軍 キャンプ H.M.スミス 米国インド太平洋軍 北東アジア同盟支部長、第22期マンسفールドフェロー)

ベロニカ・ケネディ少佐

(米国海軍 作戦部長室 戦略戦闘イノベーション・セル OPNAV N73 SWIC フェロー、外務士官、第25期マンسفールドフェロー)

アンドリュー・オロス博士

(ワシントン・カレッジ政治学及び国際研究教授、ウィルソン・センター フェロー)

モデレーター:

ベンジャミン・セルフ

(モーリーン・アンド・マイク・マンسفールド財団 副理事長))

登録は[こちら](#)から

(2)4月1日(米国時間3月31日)

### 「海洋安全保障と日米関係」

Maritime Security and the U.S.-Japan Relationship

詳細については後日ご案内いたします。

## <マンسفールド・フェロースhip・プログラム同窓生近況報告>

[English follows Japanese](#)

●アマンダ・J・バンデンドウール(Amanda J. Van den Dool) 第16期マンسفールドフェロー  
(2010年-2012年)

## 米国国際開発援助庁アジア地域開発事務所(タイ・バンコク) エネルギー・インフラストラクチャー・チーム長



今でもマンスフィールド・フェローシップ・プログラムに応募した時のことを覚えています。それまでプライベートでアジアに旅行したことが一度もなく、当時はマンスフィールドフェローとしての経験によって、その10年後、米国連邦職員としての自分の新しいキャリアや経験がどのように開花するか想像もできませんでした。

私は現在タイのバンコクで、米国国際開発援助庁(USAID)アジア地域開発事務所(RDMA)における外交官として勤務しています。エネルギー・インフラストラクチャー・チーム長として、メコン河下流域を含む東南アジア地域のエネルギー及び環境保全の大規模でダイナミックなポートフォリオを管理しています。現在、私たちは、同地域で5,500万ドルの予算規模で、イノベティブかつ再利用可能なクリーンエネルギーの開発を促進することに焦点を当てたプログラムを構築し、このプログラムは今後も拡大していくでしょう。日本の影響力もあり、当地域のいくつかの国では日本の国際協力機構(JICA)と素晴らしい協働関係を築いています。

マンスフィールド・フェローシップ・プログラムでの研修中、日本の外務省、JICA、ユニクロのCSR(企業の社会的責任)部、小野寺五典国会議員事務所で働く機会がありました。私が来日したのは、2011年の東日本大震災の数か月後で、研修期間中に日本の災害対応や復興努力についてより深く学ぶ時間を持ちたいと思っていました。荒廃され尽くした現場だけでなく、日本の人々が生活を再建し再開する回復力やレジリエンス力を視察するために、研修先の小野寺衆議院議員が、議員の故郷である宮城県気仙沼を個人的に案内して下さったことに大変感謝しています。私はまたユニクロの同僚とともに、東北でのボランティア作業に参加し、現地の方々と肩を並べ災害で出た瓦礫を清掃する作業を行い、地域の再建に貢献することができました。外務省とJICAに配属された時は、国内外を日本人の同僚とともに出張し、日本の政府開発援助がどのように実施されているかを間近に学ぶことができました。こうした様々な体験を通して、その後10年にわたり国際開発の専門家として共に働いてきた日本の同僚たちと強く深い関係を築くことができました。研修終了後、私はワシントンDCに戻り、USAIDで日本の外務省とJICAとの二国間関係を中央政策局から管理する担当となりました。その後、私は、南アフリカのプレトリアを拠点とする米国政府主導の「パワー・アフリカ・イニシャティブ」の開発パートナーシップ・チーム長に任命され、在職中には、USAIDと外務省によってサブサハラ・アフリカ地域におけるエネルギー問題を共に取り組むための協力覚書が署名されました。私は今も、日米クリーンエネルギー・パートナーシップ(JUCEP)や日米メコン電力パートナーシップ(JUMPP)のような二国間プログラムを通してJICAと協働しています。

**Amanda J. Van den Dool (MFP16, 2010–2012)**

Energy and Infrastructure Team Lead, USAID/Regional Development Mission for Asia, Bangkok, Thailand

I remember applying for the Mansfield Fellowship, having never traveled to Asia before in my personal or work capacity. I could never have imagined how my experience over 10 years ago as a Mansfield Fellow would open up new career pathways and experiences for me as a federal employee.

I am currently serving in Bangkok, Thailand as a Foreign Service Officer in USAID's Regional Development for Asia (RDMA). As the Energy and Infrastructure Team Lead, I manage a large and dynamic regional energy and environmental safeguards portfolio, covering the Lower Mekong and broader Southeast Asia region. We currently have over \$55M in regional programming focused on increasing the deployment of innovative, renewable and clean energy technologies across the region, and our program continues to grow. Given Japan's influence, we have had a great, collaborative relationship with JICA in several countries where we work.

During my Mansfield fellowship, I had the pleasure of working in MOFA, JICA, in UNIQLO's Corporate Social Responsibility (CSR) unit, as well as in Diet Member Onodera Itsonori's office. I arrived in Japan only months after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami disaster, so I wanted to spend some of my fellowship year exploring and learning more about Japan's disaster response and recovery efforts. I was extremely grateful to have Onodera-san personally show me around his hometown, Kesenuma in Miyagi Prefecture, in order to see first-hand the devastation and destruction, as well as the resilience and strength of the Japanese people to rebuild and resume life. I was also able to join UNIQLO colleagues on volunteer missions to Tohoku, where we worked side-by-side with residents to clean up debris from the disasters and help them rebuild their communities. During my rotations with MOFA and JICA, I was able to travel with Japanese colleagues to places within Japan and overseas to see first-hand how Japan's official development assistance is implemented. Through this diverse set of experiences, I was able to build strong and deep relationships with colleagues that have served me over the past decade in my work as an international development professional. After finishing the fellowship, I returned to Washington and managed USAID's bilateral relationship with JICA and MOFA from our central policy bureau. I then took an assignment as the Development Partnerships lead for the U.S. Government's Power Africa initiative, based in Pretoria, South Africa. During my tenure, USAID and MOFA signed a Memorandum of Cooperation to work collaboratively on energy issues in Sub-Saharan Africa. I now continue to

work with JICA through bilateral platforms like the Japan–US Clean Energy Partnership (JUCEP) and the Japan–U.S. Mekong Power Partnership (JUMPP).

[モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 日本語ホームページ](#)



- [!\[\]\(a88007b249b36c75dcbde101f514cec3\_img.jpg\) Facebook](#)
- [!\[\]\(800628c068083563f747129d8b339031\_img.jpg\) Twitter](#)
- [!\[\]\(01f5879e654468630e790d983a473ee0\_img.jpg\) Email](#)
- [!\[\]\(ce8b778f402aca455ccdfd070a33a08d\_img.jpg\) Support](#)